

2020年オリンピック・パラリンピックの東京開催が決定した。感動の瞬間である。閉塞感漂う日本にとって久方ぶりの明るい話題である。アベノミクスの第4の矢ともなり、日本再生の希望となり得るだろうと思う。



(読売新聞号外から転載)

日本勝利の要因は、前回敗戦の分析に基づき色々な戦術を駆使したことにあるのだろう。高円宮妃の御出馬、安倍総理等の政府の十全なバックアップ、活発なロビー活動、工夫を凝らしたプレゼンテーションの実施等々が挙げられる。日本の総合力の賜物である。

バブル崩壊後の失われた20年もようやく、その長くて暗いトンネルを抜け出ようとしている。トンネルの向こう側に明かりが微かではあるが確実に見え、出口が近いことを思わせる。6年間に6人の総理が交代し、国内外情勢に的確に対応し得ず、決められない政治と擲揄された状況を一変したのは、昨年末の総選挙、第二次安倍政権の誕生である。

大胆な金融政策、機動的な財政政策及び民間投資を喚起する成長戦略を3本の矢を骨格とするアベノミクスも次第に効果を表し始めており、国民にも期待感が広がり始めており、今般の五輪東京決定は、正に第4の矢として、国民の気持ちにも、そして実体的にも素晴らしい効果を発揮するだろうと確信する。

この日本再生のもう一つの要素は、日本の防衛・安保政策の抜本的改革である。憲法上における自衛隊の明確な位置づけ、歪な防衛政策(集団的自衛権や専守防衛、等々)の改革、それらを明示する新たな防衛計画大綱の策定等、安倍首相には着実にそれらを実行して頂きたいものである。それらが達成されて、我が国もやっと普通の国家に変貌しうる。

それにしても、中・韓とは、相容れない仲になりつつある。恐れていた中韓同盟・協商が現実になりつつあるのかも知れぬ。姑息な手段・策を弄するものだ。そこまでやるかと云うしかない。水産物禁輸は余りにもあからさまである。(了)